

婦人科救急医療の今後の対応策について

1. 第2回検討会までの協議経過に対する検討結果について

(急患診療センターで平日・土曜日の夜間に産婦人科を開設した場合の課題)

(1) 指定管理料(委託料)に対する費用対効果が低い。

ア 婦人科受診者数が少ない。

- ・各病院における時間外救急患者数(平成23年：983人/365日=2.69人/日)
(うち、院外症例患者数：440人/365日=1.21人/日)
- ・救急搬送者数(平成23年：436人/365日=1.19人/日)
- ・救急医療情報センターの紹介件数(平成23年度：230人/365日=0.63人/日)
- ・急患診療センター受診者数(産婦人科)(日・祝日，年末年始のみ)
(平成23年度：565人/69日=8.2人/日)

イ 出動医師・看護師，二次病床確保に約65,000千円の指定管理料を要す。

(別紙資料1-2参照)

(2) 急患診療センターへの出動医師・看護師を確保しなければならない。

- ・指定管理者(福岡市医師会)，産婦人科医会等との協議(協力要請)を要す。
- ・有床診療所(二次診療委託機関)，無床診療所及び勤務医の負担均衡を図る必要がある。

(3) 他の診療科目との診療体制の均衡を考慮する必要がある。

(平成23年度の急患診療センターでの日・祝日，年末年始の受診者数)

診療科ごとの受診者数	診療時間帯
産婦人科(8.2人/日)，外科(35.9人/日)	9:00～翌朝8:00
眼科(32.2人/日)，耳鼻咽喉科(72.5人/日)	9:00～24:00

(4) 急患診療センターの二次診療体制を見直す必要がある。

(委託先二次医療機関の確保病床等を実態に応じたものとする。)

ア 委託先二次医療機関への搬送者数が確保病床数に比べて少ない。

年度	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年
二次搬送者数	1人	6人	2人	2人
延確保病床数	207床	207床	99床	210床

イ 委託先二次医療機関よりその他の医療機関への搬送者数が多い。

年 度	平成 23 年	平成 22 年	平成 21 年	平成 20 年
委託先二次 医療機関	1 人	6 人	2 人	2 人
その他の 医療機関	15 人	19 人	11 人	11 人

- ・委託先二次医療機関
(急患診療センターからの二次診療を委託している有床診療所)
- ・その他の医療機関
(上記以外の医療機関(A病院, B病院, C病院, E病院, F病院, H病院, G病院))

2. 考 察

急患診療センターでの平日・土曜日の夜間診療については、費用対効果が低く、出動医師等の確保及び他の診療科目との均衡など考慮すべき課題が多いことから、実現困難である。

3. 今後の対応策(案)について

喫緊の課題である福岡赤十字病院や福岡徳洲会病院等の負担軽減を図るため、平日・土曜日の夜間における一次急患診療及びトリアージ体制について、下記事項を検討、協議する。

(1) 開業産婦人科医，産婦人科医を擁する医療機関の参画

ア 開業産婦人科医によるトリアージ・電話相談受付

イ 福岡県救急医療情報センターの紹介先医療機関の拡大

C病院, D病院, E病院, F病院, G病院, H病院, I病院
(J病院, K病院等)

ウ 二次病院の輪番制による救急搬送患者の受入

(2) その他の対応

急患診療センターに従事している内科医による対応(トリアージを含む。)